

GSユアサ

# 車用鉛蓄電池値上げ

## 10年ぶり、6月から10%超

ジーエス・ユアサバッテリー（本社＝東京都墨田区、澁谷昌弘社長）はこのほど、6月1日から自動車用鉛蓄電池の価格を10%以上引き上げると発表した。補修用の全機種が対象で、値上げは10年

ぶり。主原料の鉛価格の高止まりに加えて、物流などの諸コスト上昇も継続する見通しで、コスト削減の企業努力だけでは吸収が困難だと判断した。

自動車用鉛蓄電池は新車用と補修用の二つに分けられる。自動車メーカー向けに出荷する新車用の価格体系は相場スライド制となっているが、量販店やカー用品店向けの補修用は固定制が一般的。鉛価格上昇に伴うコスト高はバッテリーメーカー

が負担することになってきた。鉛建値は昨年10月まではトン23万～27万円を推移していたが、米大統領選後にロンドン金属取引所（LME）の鉛相場が急上昇し、為替の円安も進行。国

内建値は12月半ばにリーマン危機後の最高値となる33万2000円を付け、今年に入り月間平均30万～32万円台の高値を維持している。

わたり20～30%の大幅値上げが敢行されたが、08年のリーマン危機後は20万円台中心の落ち着いた値動きとなっていた。

同社が自動車用鉛蓄電池を値上げするのは2007年以来のこと。当時は投機資金流入によりLME鉛相場が急騰し、一時は年初比2倍以上の40000に迫り、国内建値も史上最高値の50万7000円を記録した。そのため年間で計3回に

同社グループは昨年、パナソニックの鉛蓄電池事業を買収して国内シェアを高めている。国内最大手の値上げに同業他社が追随する可能性もあり、さらには産業用などの他の鉛蓄電池にも価格改定が波及することも考えられる。